

あらためて『稲穂』について

とうすい

佐々木康夫（高15回 在京飯田高校同窓会会長）

在京飯田高校同窓会（本同窓会）会誌『稲穂』も、本年をもって第14号の発刊となりました。これまでの間、発刊の起案者たる平田達元本同窓会会長、金田明夫初代編集長、福澤郁文前編集長、『稲穂』の名付け親である牧内雪彦特別編集委員並びに多くの編集委員、協賛して寄稿いただいた方達の多大なご尽力で、他に比して賞賛される同窓会誌になっております。

平田元本同窓会会長は、『稲穂』創刊号において「感動を語ろう、時代の心を伝えよう」、そして沢山の先輩や後輩たちの知己を得て、心の中に詰め込まれてきた感動をより確かなものにし、同窓生夫々が、年齢・職業を超え、互いに語り合い、感動の交歓ができる場を持ちたいと述べておられます。

この意に鑑みれば、『稲穂』の目的のひとつは、性別・年齢を超えて、同窓生達の夫々の分野におけるその生き様を知り、それを知る人達が自らをかえりみて、新たな思考・想いをもたらす場であると言えましよう。即ち、社会／職業／趣味等々での成功／不成功を踏まえ、赤裸々な生き様／思考／思いを述べていただく場であると言えます。

次に『稲穂』は、本同窓会をより活発にするため、諸々の活動を紹介する一方で、在京以外の飯田高校同窓生及び在校生・先生達の閲覧に付し、飯田高校／他地区の同窓生達との「絆」を深めようとする場でもあります。

本年、これまで編集に携わり、多々ご尽力いただいた多くの方達のご努力を糧に、一部、編集体制を新たにし、編集長に松原秀幸本同窓会副会長・3人の副編集長・特別編集委員・編集委員等々が構成致しました。また、これまで頑張ってきた編集委員の他に、自他薦で編集委員を募ったところ、特に若い世代の本同窓会生の応募があり、選考の結果、新たな方達に加わっていただきました。今後とも、編集に参画してみたいという方がおられましたら、是非ご一報いただきたいと思えます。

『稲穂』は、本同窓会誌であっても、基本的には「自主運営」になっており、唯一、広告料が頼りになっております。これまでも、飯田・下伊那地区を含め、多くの方達に支えられ、刊行致して参りました。今後とも引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

一方、会社生活も終わり広告を出せないが、何か協力をとっていただけの方達もおられます。そこで、本号より、協賛金方式を取り入れることと致しました。金額の多寡は問いません。ご協力を賜れば幸いです。

何はともあれ「継続こそ力」です。幾多の世代を超えて、感動を語り、時代の心を伝える会誌『稲穂』が継続・発行できますよう、本同窓会生皆様共々で頑張つて参りたいと存じます。

尚、会報としては、在京飯田高校同窓会ホームページがございます。是非！ご覧ください。



●ささき・やすお 飯田市出身。早稲田大学第一法学部卒業。昭和電工勤務後、現ヴェオリア・ジャパン相談役。趣味は陶芸。東京都江戸川区在住。平成27年11月、第12代在京飯田高校同窓会会長に就任。